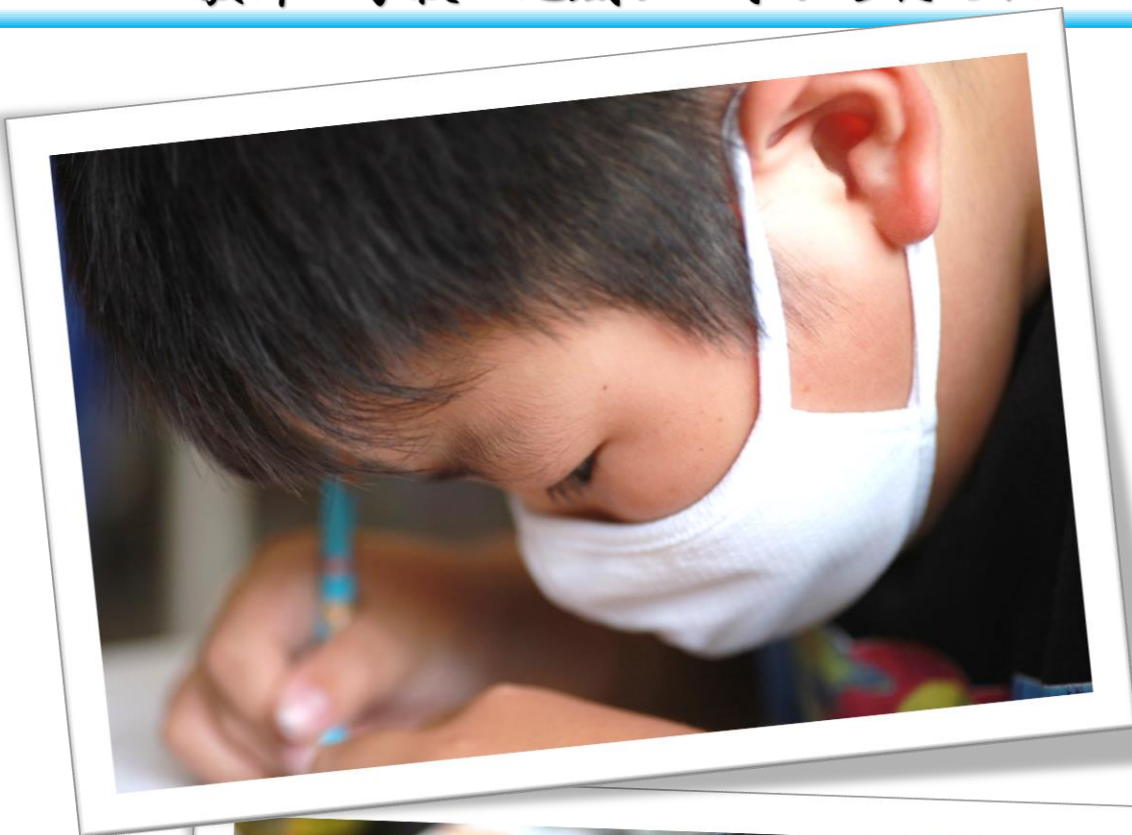


北信教育事務所だより

第6号

令和2年9月8日(火)

～教師・学校・地域がつながるために～



学びの姿



支える教師

特集

コロナ禍を乗り越える学びの姿のために…

第2回 日々の授業改善研修

～ZOOM を利用したリモート研修～

オンラインでつながる教師の学び



7月29日(水)に、第2回日々の授業改善研修が行われました。コロナ禍ということもあり、第1回は電話にて、そして、今回はWeb会議ソフトZOOMを用いて、指導主事も含め、**約70名**が教科・領域毎にパソコン上でつながり、授業づくり研修を行いました。

～参加者の感想より～

ZOOMでの演習で一番良かったのは、**同じ研修を受講している先生**が、どのように授業を構想し、どのような意図があるのかを学ぶことができたことです。普段は、他の方から授業について意見をもらったり、誰かと一緒に授業づくりをしたりする機会が少ないので、今回の研修で学んだ授業づくりの要点やプロセスを他の単元にも活かしていきたいです。(中学校の先生より)

物語文の単元展開について不安が多くありましたが、模擬授業を受ける中で指導のアイデアをたくさんもらいました。グループ協議では、授業の中で、**「子供から“正解っぽい”意見しか出ない」等の悩み**について、先生方と考えることができ、有意義な時間になりました。(小学校の先生より)

地理的分野で世界の諸地域についての授業を検討している他校の先生方と情報を共有できたことが有意義でした。何州から始めるのか、その理由は何かを聞くことで、**授業の可能性**が広がったように思います。(中学校の先生より)

授業の導入を丁寧にする事で、授業への取り組み方が変わってくる事がよく分かりました。子供たちにどんな力をつけたいかを明確にし、そのためにどのような活動をすべきかを考えていきたい。また、座る、立つも言葉ではなく音を通して子供たちに伝えることで、音により関わりながら授業を進めていくことができ、**音を大切にすることも学びました。**(小学校の先生より)

保健指導と健康教育の違いを明確にすることができ、保健指導の授業づくりを学びました。**自分だけで指導しようとするのではなく、**各教科の内容をリサーチしながら担任の先生と協力して、学習内容を関連させて一緒に行うことで、より深めていけると感じました。(小学校の先生より)

普段、一人で教材研究することが多くなってしまい、日頃からの悩みを一つひとつ細かく教えていただき、とても充実した時間でした。特に、授業の流れに合わせて、どんな道具を使えば作品がきれいに仕上がるのか、生徒が課題を設定していくための場をどのように作っていけばよいかなどを教えていただきました。**自身の授業改善**に役立てていきたいです。(中学校の先生より)

リモートでの研修は、初めての試みで、環境面など課題もありましたが、たくさんの可能性を感じると共に、参加者の先生方の「**学びたい!!**」という思いがとても伝わってくる研修でした。このコロナ禍、各学校でも様々な取り組みに挑戦していることと思います。北信教育事務所も各学校と共に挑戦を続けていきたいと思っています。



♪お知らせ♪

次回(第3回)は、**11月20日(金)**に長野合庁にて、**11月26日(木)**に北信合庁にて、実践を持ち寄り、お互いに報告・検討し合う予定です。実践してきた授業改善の様子を語り合っ、共に学び合いましょう(状況によっては、研修場所や方法が変更になる場合もあります。その際は、各学校へ事前に連絡いたします)。

特別支援学級(学校)で こんな悩みはありませんか？

コロナ禍で、今まで行って
きた交流*ができない…。



できない

でも、交流を通して話す力や聞
く力、人とのかかわりや集団へ
の参加など学んでほしい…。

※交流…「交流及び共同学習」

●学習指導要領等でその意義や目的が明
示されています。

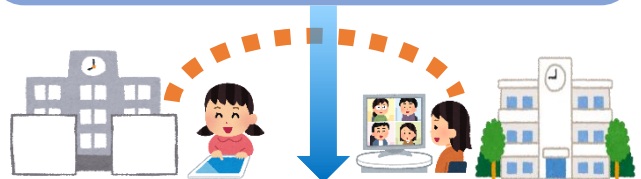
交流及び共同学習は、児童が障害のある幼
児児童生徒とその教育に対する正しい理解と
認識を深めるための絶好の機会であり、同じ
社会に生きる人間として、お互いを正しく理
解し、共に助け合い、支え合って生きていくこ
との大切さを学ぶ場…

(小学校学習指導要領解説(総則編)より抜粋 下線部装飾執筆編集)

このような悩みを…。



ICT機器*と
オンラインビデオ通話アプリ*
を活用し…



教室間、あるいは学校間を
オンラインでつないで…

今だからこそ!!

やってみよう!

交流及び共同学習を進める
ことができます

※オンラインで交流活動をする場合にも…

交流及び共同学習の実施に当たっては、
双方の学校同士が十分に連絡を取り合い、
指導計画に基づく内容や方法を事前に
検討し、各学校や障害のある児童生徒
一人一人の実態に応じた様々な配慮を
行うなどして、計画的、組織的に継続し
た活動を実施することが大切である。

(小学校学習指導要領解説(総則編)より抜粋 下線部装飾執筆編集)

- 学校(学級)同士で連絡を取り合い、
(できれば接続テストをして)
- 目的や内容を検討・共有し、
- 交流を通して、めざす力を育みましょう。

・特別の教育課程を編成している場合には、
生活、国語、社会といった各教科の目標
(参考:特別支援学校学習指導要領)や、「人間関係
の形成」「コミュニケーション」といった自立
活動のねらいを設けることができます。

・例えば、オンラインでの交流活動を通してあいさつの仕方を学んだり、学級や学校の紹介をして
「聞くこと・話すこと」の技能を高めたりすることが期待できます。オンラインの交流活動をきっかけ
として、作品を交換して紹介しあったり、手紙のやり取りをしたりするなど、オンラインに限らない
交流への発展、継続も可能です。また、この機会にICT機器の使い方を学ぶこともできそうです。

令和2年度 北信地区 信州型ユニバーサルデザイン推進校の紹介

信濃町立信濃小中学校（2年次）

◎ MIM の継続と活用、

学校全体で取り組む体制づくり

着眼点

- ・ 教育的ニーズの把握
- ・ 学び方の多様なオプション

◎ 今年度の取組

中野市立南宮中学校（新規）

◎ 安心して学び合える学習集団づくり （生徒の多様性を包み込む授業）

着眼点

- ・ 理解を助ける配慮
- ・ 活動に取り組みやすい配慮

千曲市立屋代中学校（2年次）

◎ 近隣の小学校と連携、小から中への スムーズな移行を目指す

着眼点

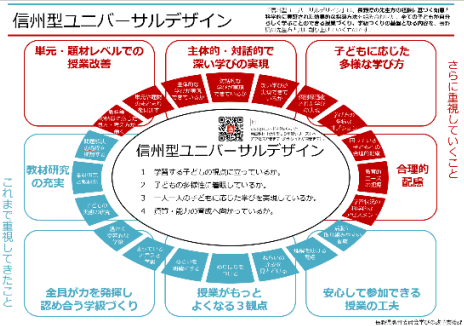
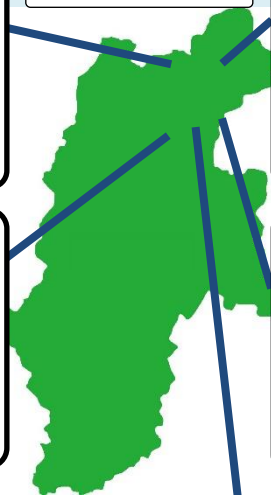
- ・ 活動に取り組みやすい配慮
- ・ 理解を助ける配慮
- ・ 学習状況の科学的なアセスメント

須坂市立東中学校（2年次）

◎ 各種アセスメントの結果分析を基に、 困っている生徒への合理的配慮を 教科担任者会等で検討・支援

着眼点

- ・ 教育的ニーズの把握
- ・ 活動に取り組みやすい配慮



長野市立松代小学校（新規）

◎ 全員が力を発揮し認め合う学校づくり・子どもに応じた多様な学び方

着眼点

- ・ 温かく受容的な学級
- ・ 困っている子どもへの合理的配慮
- ・ 個別最適化された学びの実現

「全ての子供が自分らしく学ぶことができる授業づくり・学校づくり」
に向けた各校の具体的な取組について、次号より紹介していきます。

キラッ☆と輝く

学校訪問で出会ったキラッ☆と輝く子どもの姿を紹介します

相手のことを親身になって考える

～道徳科 小学校2年 主題名「思いやりの心で」 内容項目：親切、思いやり～

子どもたちは、皆で作ったお城を友達が転んで壊してしまったとき、どんな言葉をその友達にかけるかについて役割演技を通して考えてみることにしました。

Aさんは、転んで砂のお城を壊してしまう人の子の役になり、お城を壊しました。すると、「ぼくたちのお城、なんてことするんだよ」と友達に責められて Aさんは思わずうつむいてしまいました。その後、「でも、しょうがないよね。大丈夫、壊しても」と別の友達に声をかけられると、Aさんは、失敗を許してくれた友達の温かな気持ちを感じ、許してくれた友達を嬉しそうに見つめました。

学級全体での追求場面。Aさんともう一人の友達が砂のお城を壊してしまった友達へ声をかける役、先生が転んで砂のお城を壊してしまう役になり役割演技を行いました。先生がお城を壊してしまうと、Aさんは真っ先に「けがはない？」と声をかけ心配そうに先生をしばらく見つめていました。すると、先生も微笑みながらAさんを見つめました。役割演技が終わった後、先生からAさんに「どうして、『けがはない？』と言ったの」と尋ねられると、「けががあったらどうしよう、大丈夫っていう気持ちがあったから。」と答えました。お城を壊した友達の思いを察し自分事のように考えたAさん。「壊してしまった友達の気持ちを考えたんだね。先生は、そう言われて、とってもうれしくなりました。」と先生がAさんに伝えると、Aさんは一緒に演じた友達と嬉しそうに目と目を合わせていました。

困っている相手のことを親身になって考え、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れるAさんの姿が印象的でした。



「自律して学ぶ力」の育成に向けて、
自校の自学自習スタイルを更新し続けている A 小学校の取組

A 小学校では、再び臨時休業になっても児童の学びが保障されるように、日課を工夫したり、発達段階を考慮した自学自習スタイルを構築したりする等、「自律して学ぶ力」の育成に向けた取組を行っています。さらに、この取組が児童の生涯にわたって学び続ける力の育成につながると考えています。この取組を通して、児童から「勉強することが楽しくなってきた!」という声や、職員から「児童が意欲的に学習に向かうようになってきた」という声が聞かれるようになってきました。

A 小学校では、以下のようなプロセスを経て、「自律して学ぶ力」の育成に向けた取組を試行錯誤しながら推進してきました。



【進んで自学自習に取り組む児童】

プロセス1 学年会で児童の実態を分析し、全職員で具体策を考える。

A 小学校では、4、5月の臨時休業中の家庭学習の進行状況から、自分ではなかなか進めることが難しい児童の実態を把握しました。そこで、再び臨時休業になっても児童が自学自習を進めことができるように、まず各学年会で、自学自習に関わる学年児童の実態を分析する場を設けました。その結果、低学年では「一人でプリントを読んで、考えることは難しい」、高学年では「与えられたことはできるが、自分でやる内容を決めて学習する経験が少ない」、「アンケート結果から全家庭の4割弱でICT環境が整っていない」という実態が明らかになってきました。

そこで、登校できている今、自学自習のやり方を身に付けたり、きっかけづくりをしたりする時間を日課の中に設け、家庭でも自学自習ができるようにする取組を全職員で行うことにしました。

プロセス2 日課に自学自習の時間を位置付け、児童のがんばりを認める。

6月1日から、1単位時間を50分間とし、そのうち前半の35分間を授業、後半の15分間を「自学自習、手洗い、遊び」の時間に位置付けた日課がスタートしました。特に、後半の15分間は、感染防止を意識し児童を分散させるため、自学自習か、手洗いか、遊びか、個々の児童が選べるようにしました。

当初に比べると、特に高学年で自学自習を選び、自分の机に向かって黙々と学習する姿が見られるようになってきています。これは、先生方が友達の自学自習ノートを紹介したり、掲示したりすることで、具体的にどのように自学自習を行えばよいかを示し、児童のがんばりを認めているためです。児童は、「勉強することが楽しくなってきた!」と話し、自学自習ノートを宝物のように大事にしています。



【自学自習ノートを紹介する先生】

プロセス3 児童の発達段階や個々の状況に応じた、段階的な自学自習スタイルに挑戦する。

児童の姿から手ごたえを感じた先生方は、現在2学期を迎え、児童の発達段階や個々の状況に応じた段階的な自学自習スタイルの構築に挑戦しています。

先生方は、次のように、児童の発達段階や個々の状況に応じて、段階的に自学自習を進めていくことに挑戦しています。

<p>【低学年】</p> <p>ステップ1：自分で選んで行う学習</p> <p>ステップ2：授業で興味がわいたことを追究する学習</p> <p>【高学年】</p> <p>初級編：自分で選んでやる学習</p> <p>中級編：授業で疑問に思ったこと等を追究する学習</p> <p>上級編：予習復習など自分に必要な内容を行う学習</p>

この段階を「自学のすすめ」に表し、自学自習を通して目指す方向や具体的な進め方について、おたよりを通して家庭とも共有しています。

現在、4割弱の家庭でICT環境が整っていない実情を踏まえ、当面は自学自習ノートを全校に配布し、学習を進めています。本年度末には、4年生以上の児童に一人一台端末が整備される予定であることから、2学期はそれに備え、端末を活用した自学自習の進め方について研修したり、具体的な活用法について検討したりしていく予定です。

ステップ1 ~先生がおしえてくれたことの中からじぶんでえらぶ~

<p>あしたはおやおみだね</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きなえをかいてみよう はじをつけてこうさししょう おりがみでもようをスライ <p>の中から1つやってみよう!!</p>	<p>9×8=72 9×9=81 9×7=63</p> <p>7-7=0は3の倍数 自分できめてチャレンジしよう</p> <p>うんしんは3の倍数... よしきめた! 九九ほどこいたから ちよーとみにチャレンジする</p>
<p>① ゲームのやり方 ② たばこの ③ どうぶつ</p> <p>kimetsu</p>	<p>あしたからうれんきゆう このおやおみで</p> <ul style="list-style-type: none"> がんばったこと たのしかったこと びっくりしたこと こまちかたこと <p>の中からえらんでえらぶをかう。</p>

ステップ2 ~じぶきょう中にあれ?とおもったことやじぶんのきょうみがあること~

<p>ほんとうかな? あはれをかかた たんご虫 ほいほい足 がある 1つど</p>	<p>あはれきゆう あはれきゆう あはれきゆう あはれきゆう あはれきゆう</p>
<p>35 29 x 3 x 6 105 174</p> <p>かげんのひさんびく あとはれんけんゆう</p>	<p>みんがのロケット スクリーン たのしさがあつね</p>

【自学のすすめより 低学年のステップ1、2の紹介】

「わかった」「できた」「使えた」へ、
個別化・最適化された学びを通し、自ら学ぶ生徒を育てる
B 中学校の取組

B 中学校では、学力向上によせた課題を「個の学力差の拡大」ととらえ、自主性、授業への参加意欲を高めたい生徒への支援を重点に取り組みを始めています。

これから学ぼうという意欲を持つようとする生徒には→「個別の指導＋学ぶ喜び」

「追究を楽しみたい」「もう一度チャレンジしたい」気持ちを育て、応える機会をつくっていく

もっとやりたい生徒には→「自学自習へのサポート」

「もっと難しい問題にチャレンジ」「学習集団をリード」する気持ちを高め、応える機会をつくっていく

と、支援の方向を打ち出していました。

学びの主軸は「日々の授業」！ ～コロナ感染防止に配慮して～

学びに向かうための課題「個の学力差の拡大」に向き合い、B 中学校研究推進部では、学ぶ楽しさと同時に、日常の授業を通して「わかった」「できた」「使えた」が伴ってはじめてこの課題の解決に向けた取組がスタートできると考え、課題解決へのテーマとして「履修主義」から「修得主義」を掲げています。

そのために最も重要視しているのは「授業改善」です。

- (1) 教師が一律に進める一斉授業展開からの変革
- (2) 授業と自主学習、家庭学習を有機的に連携させた学び
- (3) 対話的・協働的で深い学びの重視

研究推進部はこの3点で常に授業を振り返り、日々の授業づくりに活かしています。

ホワイトボードで対話的に

コロナ感染防止対策をしながら、どのように生徒が対話的で深い学びへ向かうことができるのだろうと考えたとき、どうしてもクラス内での友の考えを聴いたり、自分の考えを伝えたりすることが必要になります。B 中学校では、ホワイトボードを活用して、考えをまとめ、それを見合うようにして授業をすることで、友とのディスタンスを取りながらやりとりをしていました。発言は



最小限で静かな授業でしたが、一人ひとりが集中し、思いついたことをすぐにボードに書き込んで、大切だと思ったところを線で囲ったり、不要なメモを削除、訂正したりして、考えを共有し、追究を深めようとしている姿が見られました。

学びを楽しむ生徒に ～放課後の時間 学年学級の枠を取り払って～

生徒が主体的に学ぶ意欲を持つためには、「学ぶ喜び、追究をする楽しみ」が必要です。B 中学校では、先生方の創意工夫のもと、放課後に生徒が自ら選択して学ぶ「放課後塾」（25分間）を行っています。ねらいは

- ①異学年の生徒と共に学びを楽しむこと
- ②学習意欲を向上させること
- ③学習内容を定着させること

各教員が設定した講座の中から、自分が受けてみたい講座を生徒が選択し受講する、いわばサポートクラブです。7月には2回目が行われ、「みんなで数楽しよう」（数学）、「コロナウイルスってなに？」（理科）、「News から学ぶ」（社会）、「リスニングをやってみよう」（英語）など、楽しそうな講座が開設されていました。

B 中学校では、「授業の充実改善」と「放課後塾」が、今後の挑戦（学校改革）評価研究

- （1）各教師の意識改革と指導力の向上
- （2）「授業における確実な修得」をめざす真の学力保障
- （3）学年の枠を超えた「放課後塾」の更なる充実につながっていくと考えています。

個に応える ～教えて、先生～

「先生、ここところが・・・」

放課後に行われた「放課後塾」が終わったあと、ほとんどの生徒が教室を出て行く中、ひとり残って、わからないところを聞きに来る生徒がいました。

生徒がノートを持っていくと、講座を終えた先生は椅子に腰を落ち着け、じっと生徒の言葉に耳を傾け、アドバイスをしていました。

B 中学校では、他にもわからないところを先生に聞きに行ける「補習タイム」の時間も設け、テスト勉強支援・学習相談・質問タイムなどで個々の自主性、学習意欲につなげる時間を生み出しています。学ぶ喜び、追究する楽しみは、興味や関心だけでは味わえない。それぞれの生徒の発見、理解、納得を支え、授業との相乗効果によって「学ぶ喜び、追究する楽しみ」は生徒一人ひとりのものになっていくのではないのでしょうか。

学びの軸は授業。そして、それを支える「放課後塾」「補習タイム」で、生徒一人ひとりの「わかった」「できた」「使えた」につながっていく。日々、B 中学校の学びの歩みは進んでいます。

放課後塾「地図マスターになろう」
持ち物は地図帳。希望者多数により教室を体育館に変更。集まった1～3年生は、スクリーンに映し出される国の形のシルエットから、特産物、気候、地形などの特徴を手掛かりに、ソーシャル・ディスタンスを取りながら、友だちと国名を予想していました。



信州型コミュニティスクール

北信地区活動だより

NO. 15 (令和2年8月) 北信教育事務所生涯学習課 文責：指導主事 岡田 絵美

今年は新型コロナウイルス感染防止の為に、様々な活動が中止、延期、縮小となっています。第15号では、行事が中止になったことを、工夫した活動を展開することで子どもの力を伸ばすチャンスに変えていこうと取り組んでいる事例を紹介します。

木島平小



「子ども達が企画する 八丈島宿泊体験学習代替行事」

Ⅱ 活動までの経緯

木島平小学校では、毎年八丈島の小学校や地元の皆さんとの交流活動を行っています。夏は木島平小の5年生が八丈島を訪れ、冬には八丈島の5年生が木島平村を訪れます。

しかし今年は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、八丈島での宿泊体験が中止となってしまいました。

学校では「子ども達にとって貴重な体験学習の場面だ。何とかして代替りになるような学習が実現できないだろうか」という思いから、子ども達自身が宿泊行事の行き先や日程を企画する、代替行事を考える学習を進めることとしました。「行事の中止を機に、代替行事案を5年生の社会科学習の内容である地理的分野の学習と関連させながら、自分達の行事計画を自分達で調べ、立案する学習へと展開していく」ことで、自分との関係で考えにくい地理学習も、自分事として引き寄せることができ、より主体的な学びへのチャンスになると捉えました。

Ⅱ 子ども達へのねがいを共有する「学校運営協議会」

学校運営協議会では、学校のねがいを受け止めて、どんな応援ができるのかが話し合われました。その中で、「村の関係者に発表することで、子ども達に目的意識を持たせることができる」「ディスカッションすることを通して、考えをより広めることができる」ことを共通理解し、八丈島宿泊体験学習代替行事についての発表会に協力をする事となりました。

当日は、学校運営協議会で発表会の司会進行を務め、学校運営協議会委員、村議会議員、教育委員会の皆様が発表を参観し、子ども達とのディスカッションを行いました。



II 発表→ディスカッションを通して考えを見直し→深める

発表会では、グループ毎に自分達の計画について説明しました。5つのグループから発表された行き先は、「鳥取」「富山・石川」「静岡」「石川・福井」「京都・滋賀」と様々。子ども達は、その場所で何を見てきたいのか、旅行の日程、見学場所のポイントなどを発表しました。

発表後は、グループ毎に分かれてのディスカッションが行われました。ここでは「どうしてその場所を選んだのですか?」「全員に聞きますが、楽しみにしている場所はどこですか?」「この日程では厳しいのではないかなあ」等、大人からの意見に対して子ども達が答えていくという生きたやりとりが見られました。

ディスカッションを通して考えたことをもとに、今後さらに計画を練り上げていく予定です。

最後に、参加した皆さんから子ども達へ次のような感想が伝えられました。

皆さんが自ら決めていくこの体験が、これからの時代に生きてくると思います。いろんな面での発想を大事にして欲しいと改めて思いました。大人が考えて子どもが参加する。これまでの行事のあり方を、これからは見直さないといけないと感じています。



今後、子ども達の計画案を汲みながら、学校、村の関係者、旅行会社で正式な計画が立案されます。子ども達にとって、自分達で考えた計画がどのように反映され、どう決まって行くのかを知ることは「主権者教育」の入口にもなると捉えられます。木島平村では今後も学校と村関係者が協力して子ども達の育ちを支えていきます。



ポイント

活動で大事にしたいことを共通理解した上で、そこに向けてできる支援を積極的に行った事例です。

共通理解に基づいた、子ども達の良かった姿を伝えることで、子どもも自らの良さを意識できます。



「子ども達の参画をどのようにとらえていくか」

木島平村教育委員会では、子ども達の参画の度合いを知る指標としてロジャー・ハートの「子どもの参画の梯子」を紹介しています。活動に応じてどのような参画を目指したいのかを考える一つの資料としてみてはいかがでしょうか。

一段…操り参画
二段…お飾り参画
三段…形だけ参画

非参画

四段…子どもは仕事を割り当てられるが、情報は与えられている

(与えられた役割の内容を確認した上での参画)

五段…子どもが大人から意見を求められ、情報は与えられる

(大人主導で子どもの意見提供ある参画)

六段…大人が仕掛け、子どもと一緒に決定する (大人主導で意思決定に子どもが参画)

七段…子どもが主体的に取り掛かり、子どもが指導する (子ども主導の活動)

八段…子どもが主体的に取り掛かり、大人と一緒に決定する (大人を巻き込む)

子どもは変革の担い手として明確なビジョンと目的の下、大人を巻き込んでいく存在である。

地域とともにある学校づくりの充実に向けて、学校や地域に出向いての信州型CSの基礎研修や実践事例の紹介などをします。お気軽に連絡していただけたらと思います。

■■ お問い合わせ先 ■■

北信教育事務所生涯学習課 〒380-0836 長野市大字南長野南県町686-1
Tel: 026-234-9552 E-mail: hokushinky@pref.nagano.lg.jp